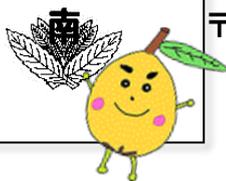


南の風

No.42

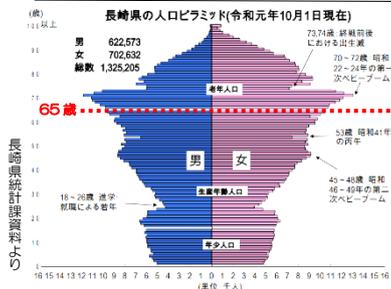
令和2年 12月24日



〒851-0245 TEL095-836-0085
長崎市千々町5 1 3 番地
長崎市立南小中学校長
岡田 政宏

学校教育目標

自ら学び鍛え、励まし合う、心豊かな児童・生徒の育成



人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率。長崎県では約32%（全国は約28%）で全国12位。今後、介護のニーズが高まる一方、それを担う介護職員が、

五年後には300人以上不足すると試算されています。このため、未来を担う子どもたちに、介護に対する正しい理解を持つってもらうことは、とても重要です。そこで、12月4日、介護福祉士の原田竜生さんをお招きし、体が不自由な方にとつての生活を体験しながら学ぶ出前講座を開催しました。目隠しをしてペットボトルのふたを開け、コップに水を入れて飲む体験。声に出さず、

人権感覚 磨けば光る

人類の努力によって作られたもの

人権に関する正しい知識や自他を尊重する人権感覚を磨くことを目的として、日常的に人権学習を行っています。今回は、特に12月の人権週間にあわせ、重点的に取り組みました。

12月1日、中学校では、生徒が自ら課題を見つけ、調べたテーマについて保護者の前で発表。スライドで分かりやすくまとめています。

調べた「拉致問題」は、北朝鮮当局による人権侵害です。そこに住む人々やルーツのある人々には責任はありません。さんが調べた「新型コロナウイルス」に関連した誹謗中

傷」は、中傷した人をさらに中傷するという負の連鎖もあっていきます。人権学習によって新たな差別を生むことがないように、私たち教師も十分注意して指導してまいります。

12月2日、小学校では、教室の中のような様子を描いたイラスト（児童同士の様々なトラブルから、問題点は何なのか、どのような行動ができたらいのか、についてグループで話し合いました。また、みんなの意見は、パソコンを使い、共同編集できるファイルに書き込み、発表し合います。みんな、ほっこりです。



友だちからのメッセージを見つめる児童

共生社会の実現に向けて 福祉のしごと 基礎講座



アイマスク体験で不便さを学ぶ児童

「福祉」とは相手に言葉で伝える体験。（子どもたちだけでなく、教職員誰一人当てることはできませんでした。）

「福祉」とは相手に言葉で伝える体験。（子どもたちだけでなく、教職員誰一人当てることはできませんでした。）

「3密」が輝きました。今月、コロナ対策最前線での活躍されている長崎大学病院の泉川公一先生が、桜馬場中学校で講演をされました。新型コロナウイルスの感染者への差別や偏見を生まないように、正しい知識を身に付けてもらうことがねらい。生徒からの「風邪と区別ができるのか？」の質問に、泉川先生は、「専門家でも区別がつかない。風邪の症状で受診したらまずコロナを疑う。だから今年は、くれぐれも風邪をひかないように。」と回答。自分自身にできること。風邪をひかない、うつさない。

ケセラセラ

「ONE TEAM(ラグビー日本代表)」。一年前に新語・流行語大賞に輝いた言葉です。今年の同大賞候補には、スポーツ関連の言葉は初めてゼロ。一方、一つの事柄に関連する言葉がこれほど多く候補に挙がるのは初めてのこと。関連する言葉とは、もちろん「新型コロナウイルス」。今月一日、ノミネートされたトップ10が発表されました。「愛の不時着」「あつ森」「アベノマスク」「アマビエ」「オンラインOO」「鬼滅の刃」「GO TO キャンペーン」「3密」「ソロキャン」「フちゃん」皆さんはいくつ分かかりますか。年間大賞には、「3密」が輝きました。今月、コロナ対策最前線での活躍されている長崎大学病院の泉川公一先生が、桜馬場中学校で講演をされました。新型コロナウイルスの感染者への差別や偏見を生まないように、正しい知識を身に付けてもらうことがねらい。生徒からの「風邪と区別ができるのか？」の質問に、泉川先生は、「専門家でも区別がつかない。風邪の症状で受診したらまずコロナを疑う。だから今年は、くれぐれも風邪をひかないように。」と回答。自分自身にできること。風邪をひかない、うつさない。

二学期の終業式

子どもたちに、九月の始業式で話したことを思い起こしてもらい、改めて本校の教育目標について、考えてもらいました。冬休みは、昨年引き続き、自ら進んで我が家に必要なお手伝いは何かを考え、実践するという校長からの宿題を出させていただきました。

【実際の校長の話】

「新型コロナウイルス又発生から一年たちました。大変な一年でしたが、みなさんや先生方ががんばりで「明るく楽しい学校」になっているんじゃないかなーと思っています。元気に楽しく過ごすことはできましたか。九月の始業式で私が話した『2学期にがんばってほしいこと』覚えていますか？(子どもたちは考えました。うーん)「自ら(自分から)でした。一つ目は、『自ら学ぼう』『二つ目は、『自ら励まし合おう』『三つ目は、『自ら心豊かな

行動をしよう』でした。



みずか
自ら
(自分から)

学ぼう



みずか
自ら
(自分から)

励まし合おう



みずか
自ら
(自分から)

心豊かな行動をしよう

本校の目標は、この三つを自らする子どもに育てることです。(表の表題(下参照))

皆さん、二学期の様々な活動の中で、そのことを意識して取り組んでくれました。そして、明日からは

冬休み。自分で考え、自ら行動する力が身に付いてきたか試すチャンスです。ぜひ、次の中から、家族と話し合い、家族みんなのために自分ができるお手伝いを見つけ、実行してください。

みずか しゅく だい
校長先生からの **自ら宿題**

- ① くつならべ
- ② トイレそうじ
- ③ その他手伝い

私たちが一人ひとりのために

「来年も『自ら』考え、行動し、みんなが明るく楽しい一年になるようにしていきたいでしょう。今日は、地域の方と学校が協力して作った『南校区よかとこカレンダー』を持ち帰ってください。」



目吉中とのオンライン学習が新聞で紹介されました。

本校だより「南の風」No.41で紹介

画面越し意見交換

長崎市立南中(岡田政宏校長 2人)と同日吉中(久松美専子校長、17人)は3日、オンラインで両校をつないで3年生の道徳の授業を実施。どちらも小規模校だが、遠隔授業をすることで通常より大人数での意見交換が可能になるなど、情報通信技術(ICT)を活用した授業の在り方を模索している。

南中と日吉中

南中は新型コロナウイルス感染拡大に伴う4月の一斉休校時、小規模校の強みを生かして生徒と教師全員分のパソコン端末を導入した。児童生徒に1人1台の端末を配備する政府の「GIGAスクール構想」を率先して取り入れた形。この日は日吉中に端末を貸し出して遠隔授業が実現した。授業のテーマは「選挙」。2人の候補者の公約を通じて社会参画の仕組みなどを生徒自身で考える内容で、意見を書き込む表の共有化も図った。生徒が自身の端末に自分の意見を書き込むと、瞬時に一覧表に反映され、生徒は手元の端末上での他の生徒の意見を確認できる仕組み。プリントを配布する手間もなく、生徒が全員の見聞を確認した。

南中は3年生2人だけが、日吉中3年生7人が授業に加わったことで、南中の岩本彩愛さん(15)は「いつも2人で相談していたけど、いろいろな人の意見が聞けてよかった。日吉中の溝口煌基さん(15)は「画面越しに意見を言い合うのが新鮮だった」と満足そう。

岡田校長は「ICT教育は教師も生徒も慣れることが必要。今後も実践を重ね、効果的な授業方法を探っていく」と話した。(中村亮介)

ICT活用授業実践



画面越しに日吉中生徒と一緒に授業を受ける南中生徒
長崎市、南中

紙面編集・岩永錦宗

(第3種郵便物認可)

長崎新聞 山崎 新刊 月間